

研究種目：基盤研究（C）  
 研究期間：2006～2008  
 課題番号：18520548  
 研究課題名（和文） 清代沿海航運史の研究

研究課題名（英文）  
 Study of the Coastal Transportation by Junk during Qing Era

研究代表者  
 松浦 章（MATSUURA AKIRA）  
 関西大学・文学部・教授  
 研究者番号：70121895

研究成果の概要：清朝中国の国内沿海における海上輸送が、木造帆船即ちジャンク（Junk）によりどのように行われていたかを明らかにしたものである。中国大陸の沿海は数千キロに及んでいる。清代において優秀な航運能力があった帆船の航運活動に関して、特に山東半島を中心とする渤海・黄海沿海については山東省の青島における文献調査、華南沿海における福建省においては泉州地区における実地調査等によってその沿海航運について明らかにした。

交付額

（金額単位：円）

|        | 直接経費      | 間接経費    | 合計        |
|--------|-----------|---------|-----------|
| 2006年度 | 1,400,000 | 0       | 1,400,000 |
| 2007年度 | 1,200,000 | 360,000 | 1,560,000 |
| 2008年度 | 800,000   | 240,000 | 1,040,000 |
| 年度     |           |         |           |
| 年度     |           |         |           |
| 総計     | 3,400,000 | 600,000 | 4,000,000 |

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：史学、東洋史

キーワード：清代、沿海航運、帆船、ジャンク、海上輸送

#### 1. 研究開始当初の背景

17世紀以降19世紀中葉までの清朝中国は世界史上でも最も繁栄した国であったと言われる。その繁栄を支えたのは国内経済の発展であった。農業生産の隆盛、手工業の発展など、当時の世界でも稀であり、そのためにヨーロッパの国々では東インド会社を設立して、中国の絹織物、綿織物の繊維類や陶磁器製品、後には中国茶葉を競って輸入し、ヨーロッパなどへ運んだ。しかしながら清朝中国は広大な領域を保有し、土地は広く物産は豊かであったが、現実には各物産の産出量は各地により偏在していたため、多く産出する地

から、少ない地への輸送が重要な課題であった。その課題を克服する手段として利用されたのが水運であり、海上輸送であった。しかしその海上輸送の実態、特に木造帆船の航運活動に関しては十分に解明されていない。そこで本研究課題によって上記の問題の解明を試みた。

#### 2. 研究の目的

清朝中国の国内における帆船による海上輸送の問題を明らかにするものである。数千キロに及ぶ中国大陸の沿海の航運活動を一挙に解決するには困難があるため、東北地域

と山東半島に面する渤海沿海を一つの海域ととらえ、山東半島から南の黄海・東シナ海をもう一つの海域とし、台湾海峡と南シナ海を一つの海域として、各海域の沿海航運の問題の解明を目指した。

### 3. 研究の方法

本研究は、清朝中国の国内における海上輸送の問題を明らかにするものであるが、数千キロに及ぶ中国大陸の沿海の航運活動を一举に解決するには困難があるため、東北地域と山東半島に面する渤海沿海を一つの海域ととらえ、山東半島から南の黄海・東シナ海をもう一つの海域とし、台湾海峡と南シナ海を一つの海域として、研究の遂行上三区区分から、特に山東半島、福建地区を中心に実地調査に基づいて行った。

清代において長江河口以北の海域を中心に活動していたのが水深の浅い海域を航行する平底海船の帆船である沙船と、長江以南の水深の深い海域を主たる舞台に活動していたのが尖底型海船の帆船である鳥船などであった。これらの帆船が活躍した時代が清代中後期以降である。とりわけ台湾が清朝の支配にはいった 1683 年以降、清朝は海禁を解除して沿海地区の民衆の海上活動を許可した。この結果、沿海地区の民衆は多く盛んな海上活動を行っている。彼らの海上活動を担ったのが沙船や鳥船などの木造帆船であった。清代にはこの他にも様々な帆船が出現し、中国民衆の商業、貿易活動に従事していた。

特に沙船による帆船航運に関しては『清代上海沙船航運業史の研究』（2004 年）において明らかにしたように、上海や長江河口付近の水深の浅い水域において水上輸送の役割を担った平底海船の沙船が、長江河口付近の水域だけでなく北上して渤海沿海海域まで進出して、渤海海域沿海に集荷された穀物類

特に大豆などを、これらの沙船が上海などに運んできた。そこで、この成果を踏まえてこの沙船が入港し取引した渤海沿海の諸港及びその後背地の関係なども含め考察した。

華南沿海では福建を中心に活動していた尖底型海船の鳥船などの福建船は、その活動海域が広く、北は渤海沿海から南は南シナ海海域のみならず、江戸時代の長崎にも来航していた。これら福建船がどのように活動していたかを、福建における実地調査によって考察した。

### 4. 研究成果

山東半島の青島にある青島档案馆の 20 世紀初頭における帆船の登録記録などを参考にして、さらに明代、清代の膨大な地方志資料や、中国の港市の通商関係を中心とするが詳細な記録を残している明治以降の外務省の記録や領事報告などを探索し、山東半島を中心とする港市と沿海活動の問題を明らかにした。山東省は東南北の三方が海に面しており海運に便利であり、とりわけ芝罘（烟台）は山東省の東北嘴に突出して、大小の船舶の碇泊に優れ、特に領事報告には 19 世紀末において往来し寄港する帆船が常に 100 隻以上であったとされている。これら記録から帆船によって貨物の搬入・搬出が行われていたことが判明し、江南からの沙船も 300 餘艘、浙江省の寧波船が 30～40 艘などの記録が見られるなど、中国側の記録には見られない看過できない重要な資料が明らかとなった。そして現地調査により長江口付近で活躍した平底型海船の沙船が入港した現在の烟台や鳥船が入港した膠州の港を中心として黄海・東シナ海沿海海域の沿海貿易の実態の一端を明らかにした。

福建省は古来より耕作地が狭く、しかも人口が多く、土地からの収入では人々を養うことは出来ず、大半の人々が海域活動によって

生活の糧を得ていたとされる。そのため多くの優秀な船員を輩出してきた。その優秀な航海能力のある福建帆船の船員として活躍していた人々に、福建近海にある金門島出身の船員がいたが、これまで看過されていた。そこで漂着船の史料を中心にその存在を明らかにした。金門島は清代においては福建省泉州府同安縣に属したが、後に金門縣とされた。その金門縣に居住する人々が船員として活動していたことを明らかにした。福建の泉州は古来より中国を代表する港市として知られているが、海外発展を支えて来た泉州沿海民衆の実体的姿はそれほど明らかにされてきたわけではない。そこで2008年8月に泉州海外交通史博物館の協力を得て、福建沿海の港湾において木造帆船に乗船していた船長経験者による聞き取り調査を行い、清代泉州府晋江縣の民衆がどのように海上に進出していたかについて実地調査や船員となった人々の族譜・家譜資料を調査し、祥芝、深滬などの港では木造船舶を造船し商業活動に従事し、これら泉州地域の木造帆船は台湾海峡を主たる海域としていたが、台湾からの物資を、北は黄海、渤海海域や江蘇省・浙江省へ、南は広東省方面、さらに東アジア海域にまで進出し活動していたことが族譜史料からも明らかとなった。

#### 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計 10 件)

- ①松浦章、「清代帆船航海運與金門船員」(蔡雅芸 王亦錚譯)、『海交史研究』、2008年第2期(総54期)27-46頁、2008年、査読有
- ②松浦章、「清代浙江対日貿易港乍浦與沿海貿易」、『浙江海洋文化與經濟』、第2輯北京・海洋出版社、1-11頁、2008年、査読有

③松浦章、「清代帆船の航海活動について」、細谷良夫編『清朝史研究の新たなる地平—フィールドと文書を追って—』、山川出版社、239-268頁、2008年、査読有

④松浦章、「清代上海與沙船航海運業」、韓昇主編『古代中国：社会轉型與多元文化』上海人民出版社、393-400頁、2007年、査読有

⑤松浦章、「清代帆船の山東沿海航海運について」、『関西大学文学論集』第57巻第3号、57-76頁、査読無

⑥松浦章、「明清時代中国の海上貿易と陶磁器の流通」『貿易陶磁研究』NO.27、4-14頁、2007年、査読有

⑦松浦章、「日本台湾統治時代の西洋型帆船」、『南島史学』第69号、49-63頁、2007年、査読有

⑧松浦章、「十七世紀以降的東亞沿海航海運與中國帆船：沙船・鳥船爲中心探討」(卞鳳奎譯)、『海洋文化學刊』第二期、国立台湾海洋大学、5-24頁、2006年、査読有

⑨松浦章、「近代上海南市和沙船航海運業」、『近代中国的城市與鄉村』社会科学文献出版社、116-130頁。2006年、査読有

⑩松浦章、「日治時代臺灣海峡の海賊」、『臺灣學研究通訊』国立中央図書館臺灣分館、創刊号、1-19頁、2006年、査読有

[学会発表] (計 5 件)

①松浦章、「清代晋江帆船的海上發展」、「海上交通與伊斯蘭文化」国際學術研討会、中国・泉州・海外交通史博物館、2008年11月25日(25-28日)

②松浦章、「清代帆船航海運與金門船員」、「海洋人文教学と研究」国際學術研討会、台湾・国立台湾海洋大学人文社会学院・金門技術学院(台湾・金門)、2008年6月19日

③松浦章、「清代帆船山東沿海航海運」、2007海洋文化国際學術研討會、国立臺灣海洋大学・基隆、2007年11月1日

④松浦章、「清代浙江対日貿易港乍浦與沿海貿易」、寧波大学・浙江省海洋文化與經濟研究中心主催「以寧波爲中心的浙江海上交通學術研討會」寧波大学文学院、2007年7月17日

⑤松浦章、「17世紀以降中国沿海帆船：沙船與烏船爲中心」（基調講演）、「2006海洋文化學術研討會：紀念鄭和與沿海地區文化發展」、國立臺灣海洋大學人文社會科學院・基隆、2006年11月10日

〔図書〕（計 2 件）

①松浦章、『東アジア海域の海賊と琉球』、沖繩・榕樹書林、2008年、337頁

②松浦章、『江戸時代唐船による日中文化交流』、思文閣出版、2007年、460頁

## 6. 研究組織

### (1) 研究代表者

松浦 章 (MATSUURA AKIRA)

関西大学・文学部・教授

研究者番号：70121895